



警告!

安全に関する注意事項、防爆規格及び所在地の規則に従い、銘板に記載された適用場所で製品を正しくご使用ください。各防爆規格及び注意事項が共通しないので、ご注意ください。



II 2GD Ex db IIB T4 Gb, Ex tb IIIC T130°C Db IP66, IP68

OME シリーズ防爆タイプ 90 度回転電動アクチュエータ(以下“アクチュエータ”という)は、グループ IIAと IIB、温度等級T1~T4 の可燃性ガス・蒸気または空気と混合した爆発性雰囲気が存在する危険区域 NONE 1 や ZONE 2、グループ IIIC、温度等級T1~T4 の導電性・可燃性粉じんが存在する危険場所 ZONE 21 や ZONE 22、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある危険場所での使用に対応可能です。

認証された製品は下記の条件で使用可能です。

大気圧: 80~110 kPa
 周囲温度: -30°C~+70°C (-22°F~+158°F)
 相対湿度: 95%以下 (+25°C / +77°F)
 供給電源: 定格電圧±10%、周波数±1%の範囲で使用可能。



OME シリーズ防爆タイプ 90 度回転電動アクチュエータ(以下“アクチュエータ”という)は下記の危険場所で使用可能です。

Division システム:

グループ C・D、温度等級T1~T4 の可燃性ガス、蒸気または空気と混合した爆発性雰囲気が存在する、そして発火点 130°C以上で、空気中に浮遊・集積している状態の単一や複数の可燃性粉じんが存在する、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある北米危険場所 Division 1 や Division 2。

Zone システム:

グループ IIAと IIB、温度等級T1~T4 の可燃性ガス、蒸気またはその混合物が存在する北米危険場所 NONE 1 や ZONE 2、そして発火点 130°C以上で、空気中に浮遊・集積している状態の単一や複数の可燃性粉じんが存在する北米危険場所 ZONE 21 や ZONE 22、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある北米危険場所。

認証された製品は下記の条件で使用可能です。

Class I, Division 1, Groups C, D T4
 Class II, Division 1, Groups E, F, G T130°C
 Type 4X
 Ex db IIB T4 Gb (For Canada)
 Class I, Zone 1, AEx db IIB T4 Gb (For US)
 Ex tb IIIC T130°C Db (For Canada)
 Zone 21, AEx tb IIIC T130 °C Db (For US)
 IP66, IP68 (72h, 7m)



II 2GD Ex db IIB T4 Gb, Ex tb IIIC T130°C Db IP66, IP68

OME シリーズ防爆タイプ 90 度回転電動アクチュエータ(以下“アクチュエータ”という)は、グループ IIAと IIB、温度等級T1~T4 の可燃性ガス・蒸気または空気と混合した爆発性雰囲気が存在する危険区域 NONE 1 や ZONE 2、グループ IIIC、温度等級T1~T4 の導電性・可燃性粉じんが存在する危険場所 ZONE 21 や ZONE 22、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある危険場所での使用に対応可能です。

認証された製品は下記の条件で使用可能です。

大気圧: 80~110 kPa
 周囲温度: -30°C~+70°C (-22°F~+158°F)
 相対湿度: 95%以下 (+25°C / +77°F)
 供給電源: 定格電圧±10%、周波数±1%の範囲で使用可能。



Ex db IIB T4 Gb, Ex tb IIIC T130°C Db IP66, IP68

TD0404XY

OME シリーズ防爆タイプ 90 度回転電動アクチュエータ(以下“アクチュエータ”という)は、グループ IIAと IIB、温度等級T1~T4 の可燃性ガス・蒸気または空気と混合した爆発性雰囲気が存在する危険区域 NONE 1 や ZONE 2、グループ IIIC、温度等級T1~T4 の導電性・可燃性粉じんが存在する危険場所 ZONE 21 や ZONE 22、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある危険場所での使用に対応可能です。

認証された製品は下記の条件で使用可能です。

大気圧: 80~110 kPa
 周囲温度: -30°C~+70°C (-22°F~+158°F)
 相対湿度: 95%以下 (+25°C / +77°F)
 供給電源: 定格電圧±10%、周波数±1%の範囲で使用可能。

JPEX Ex db IIB T4 Gb, Ex tb IIIC T130°C Db IP66, IP68

OME シリーズ防爆タイプ 90 度回転電動アクチュエータ(以下“アクチュエータ”という)は、グループ IIAと IIB、温度等級T1~T4 の可燃性ガス・蒸気または空気と混合した爆発性雰囲気が存在する危険区域 NONE 1 や ZONE 2、グループ IIIC、温度等級T1~T4 の導電性・可燃性粉じんが存在する危険場所 ZONE 21 や ZONE 22、及び上記の可燃性ガスと粉じんが混在する爆発性雰囲気のある危険場所での使用に対応可能です。

認証された製品は下記の条件で使用可能です。

大気圧: 80~110 kPa
 周囲温度: -30°C~+70°C (-22°F~+158°F)
 相対湿度: 95%以下 (+25°C / +77°F)
 供給電源: 定格電圧±10%、周波数±1%の範囲で使用可能。

注意事項

1. アクチュエータを環境温度 70°C (158°F)を超えた場所に設置しないでください。
2. アクチュエータの電源を切る前に、いかなる状況においても危険場所でアクチュエータカバーを取り外さないでください。爆発性雰囲気中に引火する恐れがあります。
3. いかなる状況においても、アクチュエータを認証された仕様に適合しない危険場所で使用しないでください。
4. アクチュエータの取付け、試運転及び調整は必ず安全区域で行なってください。
5. アクチュエータの取り外し/取り付け時、カバーと本体ベースの接合面にすり傷などをつけたり、変形させたりしないようご注意ください。接合面の傷により爆発性危険場所での防爆性能が失われます。
6. アクチュエータカバーと本体ベースはすでに QA 番号によりペアリングされており、危険場所での防爆性能を確保するため、互いの QA 番号が一致していることをご確認の上、カバーを取り付けてください。
7. 取付け前に取扱説明書とカバー内側の結線図をよくお読みください。
8. 配線前に供給電圧が製品銘板に表示された電圧と一致することをご確認ください。
9. 危険防止のため、配線や点検前に必ず電源を切ってください。
10. アース線を必ずアクチュエータ内部と外部 2 箇所の保護接地 (PE ネジ)に接続してください。
11. 配線口を必ず耐圧防爆型ケーブルグランドでしっかり締め付けてください。また耐用温度 105°C (221°F)以上のケーブルを使用してください。ケーブルグランド仕様について、取扱説明書 1.2.3 「ケーブルグランド」(P.3)をご参照ください。
 ▲ 日本防爆規格の場合、A2F シリーズの防爆ケーブルグランドをご使用ください。(製造元:OMP Products Ltd).
 ▲ NPT規格の防爆ケーブルグランドをご使用の場合、IP防水性能を発揮するようにシール剤Loctite 577の使用を推奨します。
12. アクチュエータ内部にある基板が静電気により故障する恐れがありますので、素手や金属工具で基板を触れないようにしてください。
13. 2 台以上のアクチュエータを並列接続して同時に操作するような結線をしないで、1 台ずつリレーを設けてください。
14. 配線口サイズ、ケーブル外径、防爆規格、IP 防水等級に適合する防爆型ケーブルグランドをご使用ください。配線完了後、防爆型ケーブルグランドをケーブルに密着するようしっかり締め込み、そしてカバーと配線口を密封してください。防爆・防水性能を確保するため、使用しない配線口でも付属の金属プラグで締め付けてください。
15. 電動バルブの取付姿勢について、アクチュエータの配線口を上向きにならないよう 0° ~ 180° 水平以上の間に取付けてください。
16. ほこりがたまらないようにアクチュエータの清掃を定期的に行い、清潔に保ってください。
17. アクチュエータの廃棄処理については、所在地の廃棄物処理法や清掃に関する法律に従い、行ってください。
18. 取付前に下記事項をご確認ください。いずれか1つが該当しない場合は、アクチュエータの使用は強く禁止されています。
 ✓ 防爆タイプ電動アクチュエータを設置する場所は、防爆マーク及び防爆合格認証番号が適用される場所と一致すること。
 ✓ 耐圧防爆ハウジング各部の固定具が正しく、確実に締め付けられていること。
 ▲ 降伏応力 450 MPa 以上のボルトなどの固定具をご使用ください。
 ✓ すべての防爆部品には防爆性能に支障をきたす裂け目や欠陥がないこと。
19. CSA 認証注意事項
 ✓ 通電中にアクチュエータカバーを取り外さないでください。
 ▲ アクチュエータカバーの取り外しは、電源を切り 10 分置いた後で行ってください。
 ✓ ハウジング端部から 18 インチ (450 mm)以内の電線管内部には、適切なシール剤でケーブルとの隙間を確実に充填する必要があります。(Divisions に適合)
 ✓ ハウジング端部から 2 インチ (50 mm)以内の電線管内部には、適切なシール剤でケーブルとの隙間を確実に充填する必要があります。(Zone に適合)

警告!



- カバーを取り付ける前に、Oリングが良い状態であることをご確認ください。
- アクチュエータの取付・保守は、訓練を受けて十分な知識と経験を持った方により行ってください。
- アクチュエータの手動装置に工具を利用して回す力を増やすことは強く禁止されています。アクチュエータやバルブの故障原因となります。

取り付け前に

1. 安全率を掛けたバルブのトルク値がアクチュエータの最大トルク値以下であることをご確認ください。(推奨安全率:1.3)

- 125A バルブのトルク値が 80 Nm の場合 → $80 \times 1.3 = 104 \text{ Nm}$
104 Nm < 150 Nm (OME-3) → 取付け可能
 104 Nm > 90 Nm (OME-2) → 取付け不可

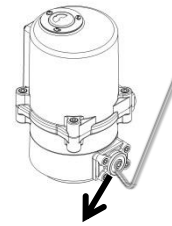
2. バルブの弁棒寸法及び取付フランジがアクチュエータのと一致していることをご確認ください。一致しない場合、アダプターやブラケットを利用して取付けてください。

ハンドホイールの取り付け

- OME-1、OME-AM



手動装置



手動装置

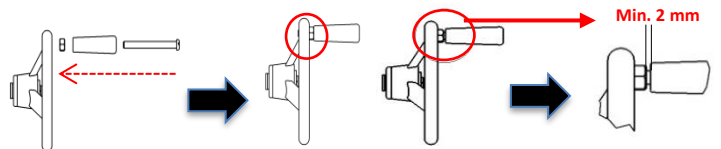
手動操作工具:スパナ(8 mm) 手動操作工具:六角レンチ(5 mm)

最大許容トルク:5 Nm

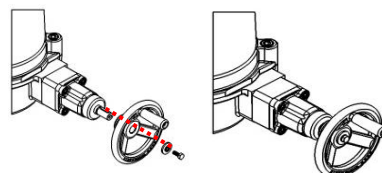
最大許容トルク:5 Nm

- OME-2~OME-8

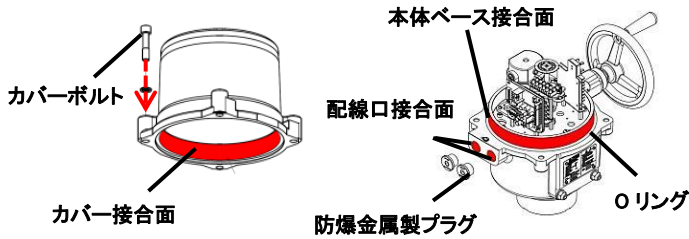
1. ボルトをグリップとナットに通し、ハンドホイールに取付けてください。
 ▲ **きつく締めないでください。**
2. ナットをハンドホイール側にタッチして締め付けてください。
 ▲ **スムーズに作動できるようにするため、ナットとグリップの間に 2 mm の隙間を保ってください。**



3. ハンドホイールをアクチュエータの手動軸に挿入してから、ボルトをワッシャーに通し手動軸に固定してください。(左図)
 ▲ **ハンドホイールの取付はアクチュエータの停止状態時に行ってください。**
4. ハンドホイールの取付け完成。(右図)



耐圧防爆接合面



カバーの取り外し

カバーを楽に取り外すため、まず配線口の金属製プラグを外して本体内の気圧を解放してください。次にアクチュエータカバーをまっすぐに上へ持ち上げて、ゆっくり取り外してください。カバーの取り外しは、ドライバなどの工具を利用することが強く禁じられています。接合面やOリング損傷の原因となります。

カバーの取り付け

- ⚠ カバーを取り付ける前に、Oリングが良い状態であることをご確認ください。
- ⚠ アクチュエータカバーと本体ベースはすでに QA 番号によりペアリングされており、互いの QA 番号が一致していることをご確認の上、同じ型式でもカバーを混用しないように取り付けてください。

下記の締付トルクによりカバーボルトをしっかりと締め付けてください。

型式	ネジ規格	六角レンチ	締付トルク
		mm	N・m
OME-A, OME-AM, OME-1	M 6	5	8
OME-2~OME-3	M 10	8	43
OME-4~OME-8	M 12	10	75

バルブの取り付け手順

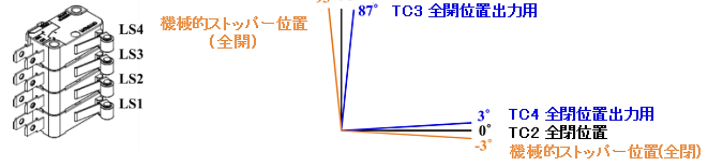
1. 取り付け前に、アクチュエータとバルブの開度位置(全開や全閉)が一致していることをご確認ください。一致しない場合、アクチュエータの手動装置によりアクチュエータの開度位置を変えてください。(例:バルブが全開位置で、アクチュエータも全開位置にしてください。)
2. アダプターやブラケットをバルブに取り付け、弁棒をアクチュエータの出力軸に差し込み、ボルトでアクチュエータとバルブをしっかりと固定してください。
 - ⚠ 事前にバルブの手動装置を取り外してください。
3. 取付けた後、アクチュエータとバルブの開度位置が一致しているかをもう一度ご確認ください。
4. 本体内の気圧を解放するため、配線口の金属製プラグを外してから、耐圧防爆接合面の内容を参照しながらアクチュエータカバーを取り外してください。
 - ⚠ 必ず電源を切った状態で取り外してください。
 - ⚠ 電源が入っていた場合、電源を切って 10 分置いてからカバーを取り外してください。
5. 配線前に取扱説明書 5.4 「配線」(P.16)の内容をご確認上、カバー内側の配線図を参照しながら配線作業を行ってください。
6. 電源を入れてください。
 - ⚠ 感電の恐れがありますので、注意を払って作業を行ってください。
7. アクチュエータの全開/全閉位置の再調整が必要かどうかをご確認ください。再調整が必要な場合、7 「機械的ストッパーとカム調整」(P.18~P.23)をご参照ください。
8. 比例制御付きの場合、「比例制御基板の設定」をご参照ください。
 - ⚠ 長さ 30m 以下のシールドケーブルをご使用ください。
 - ⚠ すべての配線について、ワイヤゲージ最低 18 AWG のご使用を推奨します。
 - ⚠ 基板設定を変更する前に、必ず電源を切ってください。
9. 調整や設定完了後、アクチュエータカバーを閉め、ボルトを確実に締め付けてください。
 - ⚠ カバーと本体ベースの接合面にはすり傷や異物がないかをご確認の上、耐圧防爆接合面の内容を参照しながら、カバーの取り付けを行ってください。
 - ⚠ カバーを取り付ける前に、Oリングが良い状態であることをご確認ください。(Oリングは出荷前に粘着剤で固定されています。)
 - ⚠ アクチュエータカバーと本体ベースはすでに QA 番号によりペアリングされており、互いの QA 番号が一致していることをご確認の上、同じ型式でもカバーを混用しないように取り付けてください。

機械的ストッパーとカムの調整

- ギア機構の故障を避けるため、調整前に電源を切ってください。
- 電動操作中に機械的ストッパーを調整しないでください。
- すべての調整と試運転は通常操作前に済ませてください。

ご調整前に - 全開/全閉リミットスイッチ

- 標準仕様ではリミットスイッチが 2 つ (LS1 & LS2) 装備されています。また全開と全閉位置に到達したことを外部に出力するための補助無電圧接点 (LS3 & LS4) をオプションとして追加可能です。
 - LS1 & LS2: モータを停止させ、全開と全閉位置のストローク範囲を調整するものです。LS1 は開側、LS2 は閉側に使用されています。
 - LS3 & LS4 (オプション): 全開と全閉位置に到達したことを外部に出力するための補助無電圧接点です。LS3 は開側、LS4 は閉側に使用されています。



補助リミットスイッチ接点展開図 (LS3 & LS4)

- 無電圧の補助リミットスイッチ (LS3 & LS4) の出力状態について、下記の展開図をご参照ください。
 - 実線(—): 接点ON状態
 - 破線(---): 接点OFF状態

【OME-1, OME-A, OME-AM】

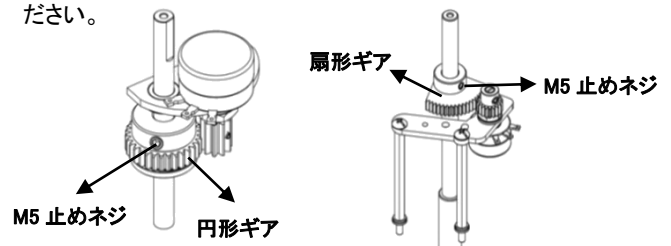
スイッチ	端子番号	開度位置	
		100%	0%
LS4 (無電圧)	A - F	—	---
	A - E	---	—
LS3 (無電圧)	A - C	---	—
	A - B	—	---

【OME-2 ~ OME-8】

スイッチ	端子番号	開度位置	
		100%	0%
LS4 (無電圧)	D - F	---	—
	D - E	—	---
LS3 (無電圧)	A - C	---	—
	A - B	—	---

調整手順

1. 電源を切ってください。
2. 機械的ストッパーのナットを緩め、開側と閉側の機械的ストッパーを【開側】 ← 各型式の回転数で緩めてください。
 - OME-2~OME-6: 25 回転
 - OME-7~OME-8: ストッパーを丸ごと本体から取り出してください。
3. 円形/扇形ギアにある止めネジを緩めてください。



【OME-1, OME-A, OME-AM】

【OME-2~OME-8】

4. 下図を参照しながら全開/全閉位置のカムを調整してください。

【OME-A、OME-AM】

工具: 六角レンチ 2.5 mm

シャフト

TC4
TC3
TC2
TC1

M5 止めネジ

TC2「閉側」 時計回り: 全開開度を増やす
 TC4 (オプション) 反時計回り: 全開開度を減らす
 TC1「開側」 時計回り: 全開開度を減らす
 TC3 (オプション) 反時計回り: 全開開度を増やす

【OME-1】

工具: 六角レンチ 2.5 mm

シャフト

TC4
TC3
TC2
TC1

M5 止めネジ

TC2「閉側」 反時計回り: 全開開度を減らす
 TC4 (オプション) 時計回り: 全開開度を増やす
 TC1「開側」 時計回り: 全開開度を増やす
 TC3 (オプション) 反時計回り: 全開開度を減らす

【OME-2～OME-8】

工具: 六角レンチ 2.5mm

シャフト

TC4
TC3
TC2
TC1

M3 ボルト

TC2「閉側」 時計回り: 全開開度を減らす
 TC4 (オプション) 反時計回り: 全開開度を増やす
 TC1「開側」 時計回り: 全開開度を増やす
 TC3 (オプション) 反時計回り: 全開開度を減らす

5. 電源を入れてアクチュエータを全開位置まで動かし、開側の機械的ストッパーを突き当たるまで締めて、その位置から各型式の戻し回転数で 1/2～1 回転戻してください。

⚠️ **アクチュエータが爆発性危険場所に設置された場合、カバーを開けたままで通電しないで、下記の手順をすべて手動操作で行ってください。**

- OME-2～OME-3: 1 回転
- OME-4～OME-8: 1/2 回転

6. 機械的ストッパーのナットを締め付けてください。

7. アクチュエータを全閉位置まで動かし、閉側の機械的ストッパーを突き当たるまで締めて、その位置から各型式の戻し回転数で 1/2～1 回転戻してください。

⚠️ **アクチュエータが爆発性危険場所に設置された場合、カバーを開けたままで通電しないで、下記の手順をすべて手動操作で行ってください。**

- OME-2～OME-3: 1 回転
- OME-4～OME-8: 1/2 回転

8. 機械的ストッパーのナットを締め付けてください。

9. 全開/全閉位置が正しいか電動操作でもう一度ご確認ください。

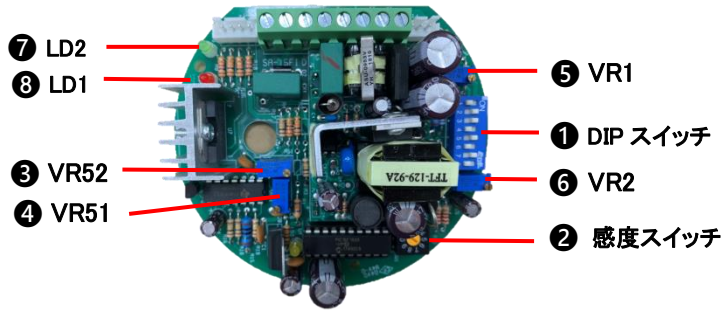
10. アクチュエータを全閉位置まで動かし、下記の各型式の説明に従い円形/扇形ギアの調整を行ってください。

- OME-A、OME-AM: 円形ギアを突き当たりまで反時計回りに回し、M5 止めネジを締め付けます。
- OME-1: 円形ギアを突き当たりまで時計回りに回し、M5 止めネジを締め付けます。
- OME-2～OME-8: 扇形ギアを突き当たりまで時計回りに回し、M5 止めネジを締め付けます。

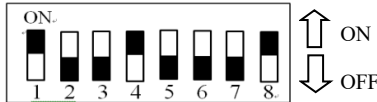
11. 調整完成です。

比例制御基板の設定(OME-A、OME-AM、OME-1)

▲下記の設定を行う前に電源を切ってください。



① DIPスイッチの設定 (出荷標準: 1、4、8 ON)



アナログ信号の設定

* S1, S2: 入力信号の設定

* S3, S4 & S5: 出力信号の設定

入力信号種類	S1	S2
4 - 20 mA	ON	OFF
1 - 5 V	OFF	OFF
2 - 10 V	OFF	ON

出力信号種類	S3	S4	S5
4 - 20 mA	OFF	ON	OFF
2 - 10 V	ON	OFF	ON

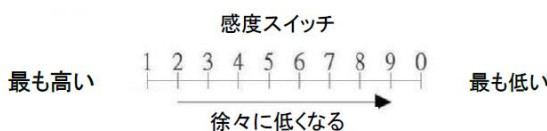
* S6, S7 & S8: 入力信号が故障時バルブ動きの設定

- ▲ スイッチ 1 と 2 は入力信号の種類を設定するスイッチで、スイッチ 6 は入力信号の高低とバルブの動きとの対応関係を設定するスイッチです。
- ▲ スイッチ 6 を ON に設定することをご希望の場合(正作動、時計回りで全開)、発注の時に営業担当にご連絡ください。出力信号が入力信号と一致するように内部結線を変更します。

図示	S6	S7	S8	入力信号が故障時 バルブの位置
<p>90° 信号</p>	ON	OFF	ON	バルブ全開(90°)
		ON	OFF	バルブ全閉(0°)
		ON	ON	バルブが故障時の位置に停止
<p>90° 信号</p>	OFF	ON	OFF	バルブ全開(90°)
		OFF	ON	バルブ全閉(0°)
		ON	ON	バルブが故障時の位置に停止

② 感度スイッチの設定 (SW2)

- スイッチを”1”に設定する場合、感度は最も高いです。スイッチを”0”に設定する場合、感度は最も低いです
- 出荷標準
 - ▶ OME-1、OME-A、OME-AM: 3



③、④、⑤、⑥、⑦ 全開/全閉位置の信号設定

- ▲ 信号の調整は出荷前にすでに完了しましたが、全開/全閉位置のカムを調整した後、または特別な信号値を望む場合以外に、再調整する必要はありません。
- ▲ 出力信号に相応なマルチメータをご使用ください。

トリマ	用途	対象
VR1	入力信号 10V、20mA の調整	全開位置
VR51	出力信号 10V、20mA の調整	全開位置
VR2	入力信号 2V、4mA の調整	全閉位置
VR52	出力信号 2 V、4mA の調整	全閉位置

- ▲ VR51 と VR52 を調整したら、VR1 と VR2 も調整する必要があります。

全開位置の信号調整

VR1 を反時計回りにカチッと音がするところまで回し、次に信号 5 V、10 V または 20 mA を入力して、VR1 を時計回りに LD2 ランプが点灯するまでゆっくり回してください。最後に VR51 を出力信号値が入力信号値と一致するまで調整したら完成です。VR51 を調整途中で LD2 ランプが消灯した場合、VR1 を時計回りに LD2 ランプが再点灯するまでゆっくり回してください。

VR51 ➤ 時計回り → 信号値を減らす
 ⤵ 反時計回り → 信号値を増やす

全閉位置の信号調整

VR2 を時計回りにカチッと音がするところまで回し、次に信号 1 V、2 V または 4 mA を入力して、VR2 を反時計回りに LD1 ランプが点灯するまでゆっくり回してください。最後に VR52 を出力信号値が入力信号値と一致するまで調整したら完成です。VR52 を調整途中で LD1 ランプが消灯した場合、VR2 を反時計回りに LD1 ランプが再点灯するまでゆっくり回してください。

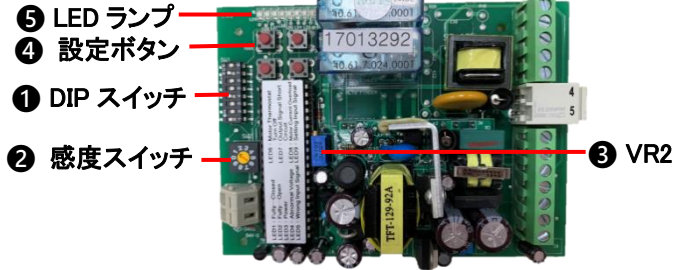
VR52 ➤ 時計回り → 信号値を減らす
 ⤵ 反時計回り → 信号値を増やす

⑦、⑧ LED ランプ(LD1、LD2)

ランプ	説明
LD1	全閉
LD2	全開

比例制御基板の設定(OME-2~OME-8)

▲下記の設定を行う前に電源を切ってください。



① DIPスイッチの設定 (出荷設定: 1、4、8 ON)



アナログ信号の設定

* S1、S2: 入力信号の設定

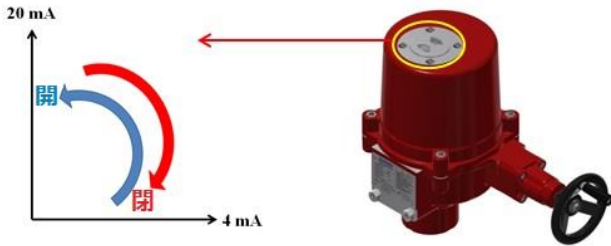
入力信号種類	S1	S2
4 - 20 mA	ON	OFF
1 - 5 V	OFF	OFF
2 - 10 V	OFF	ON

*S3、S4、S5: 出力信号の設定

出力信号種類	S3	S4	S5
4 - 20 mA	OFF	ON	OFF
2 - 10V	ON	OFF	ON

* S6: 全閉位置への回転方向

- スイッチ 6 を OFF に設定した場合、アクチュエータが時計回りに全閉位置へ回ります(逆作動)。
- スイッチ 6 を ON に設定した場合、アクチュエータが反時計回りに全閉位置へ回ります(正作動)。
- ⚠ スイッチ 6 はアナログ入力信号の高低とアクチュエータの回転方向との対応関係を設定するスイッチです。アナログ入力信号 4 - 20 mA がアクチュエータとの回転方向の対応関係について、下図をご参照ください。
- ⚠ ご希望の回転方向が出荷設定と異なる場合、開度インジケータの開度位置を変更してください。



S6	回転方向 (全開→全閉)	開度状態	入力信号	ランプ	出力信号
OFF	時計回り CW	全閉	1 V、2 V、4 mA	LD1 点灯	2 V、4 mA
		全開	5 V、10 V、20 mA	LD2 点灯	10 V、20 mA



S6	回転方向 (全開→全閉)	開度状態	入力信号	ランプ	出力信号
ON	反時計回り CCW	全閉	1 V、2 V、4 mA	LD1 点灯	2 V、4 mA
		全開	5 V、10 V、20 mA	LD2 点灯	10 V、20 mA

* S7 & S8: 入力信号が故障時バルブの動きの設定

入力信号が故障時バルブの位置	S7	S8
バルブ全開	ON	OFF
バルブ全閉	OFF	ON
バルブが故障時の位置に停止	ON	ON
	OFF	OFF

② 感度スイッチの設定(SW2)

1. スイッチを”1”に設定する場合、感度が最も高いです。スイッチを”0”に設定する場合、感度が最も低いです。
2. 出荷設定:
➢ OME-2~OME-8: 3



④ 全開/全閉位置の信号調整

- ⚠ 信号の調整は出荷前にすでに完了しましたが、全開/全閉位置のカムを調整した後、または特別な信号値を望む場合に、必ず基板の信号再調整を行なってください。
- ⚠ 出力信号に相応なマルチメータをご使用ください。

”SET”を約 2 秒押し続けると、LD9 が点灯し設定モードに入ります。

全開位置の信号設定

1. ”UP”を押し続けてアクチュエータを全開位置まで動かし、LD2 が点灯します。次に信号 5 V、10 V、または 20 mA を入力してください。
2. ”MODE”を 2 秒押し続けて、LD2 が点滅したら設定完成です。

全閉位置の信号設定

1. ”DN”を押し続けてアクチュエータを全閉位置まで動かし、LD1 が点灯します。次に信号 1 V、2 V、または 4 mA を入力してください。
2. ”MODE”を 2 秒押し続けて、LD1 が点滅したら設定完成です。

- ① 出力信号を調整する場合、トリマ VR2 を回すことにより調整可能です。

VR2 ➤ 時計回り → 信号値を減らす
 VR2 ⤵ 反時計回り → 信号値を増やす

設定が完了しましたら、”SET”を一回押して設定モードを解除してください。



⑤ LEDランプ(LD1~LD9)

ランプ	説明	ランプ	説明
LD1	全閉	LD6	モータサーモスタットが作動
LD2	全開	LD7	出力信号ショート
LD3	電源	LD8	モータ過電流
LD4	入力電源異常	LD9	設定モード
LD5	入力信号異常		

- ⚠ 異常排除した後、アクチュエータが自動的に運転しますが、LD4-LD8が点灯し続けます。消灯させるためには、”MODE”を2秒長押し、または電源をリセットしてください。